Library Mate 広報部通信

今年度からスタートした図書館をＰＲするための活動、
「Library Mate(ライブラリーメイト)」。
今回はそのライブラリーメイト広報担当者より、
この季節おすすめの本を紹介します。

シンシア・カーシー 著
／酒井 冬雪 訳

『雨が降っても立ち止まらないで』

決して諦めることをしない人々を描いたのがこの本です。テレビ史上に残る名作を生み出す作家になった少年。レストランチェーンを築き、億万長者になった一人の若者。輝かしい彼らの人生の影には、辛い困難があったのです。

そんな人生の雨の中でも立ち止まらない、アンストッパブルな彼らの姿に、私達はいったい何を思うのでしょうか。前に進むことを躊躇ってしまう時、次の１歩が踏み出せない時。この１冊を、手に取ってみませんか？

表現文化学科１年 越田 優香

開架 159||K

主人公であるさちは小さな女の子。ある雨の日に、秘密のおうちで雨やどりをしていた彼女は、たくさんのお友達と出会います。

『はっぱのおうち』

征矢 清 作／林 明子 絵
一般書庫（絵本） E||Ha

小さな頃は誰もが夢見た秘密基地。大人の知らない秘密基地で過ごす時間。この絵本はそんな小さな夢がたくさんつまったお話です。

子ども学科１年 沖田 栞

『東京日記』

内田 百閒

大粒の雨が音もなく降りしきる。皇居の濠の水が一つの大きな塊となってゆらゆらと揺れ、そこから巨大な鰻が這い出して交叉点を横切っていく。やがて、二寸三寸の鰻があちらこちらから這い上がってくる。

二三編の掌編からなるこの短編小説では少しも感情を押し付けるところがない。簡潔な言葉を緻密に積み重ねていくことで、不可思議な世界をそこにある現実のように描写する。文章家として名高い著者の神髄が発揮された作品である。

健康栄養学科四年 横田 光毅

『現代日本文学全集七五 中勘助・内田百閒集』収録
一般書庫 918.6||T||75

おーなり由子

『きれいな色とことば』

「《空の絵》天気予報を見るのが好きです。それにしても、絶望的な雨の日に、ひかる晴れ間を信じることはむずかしい。悲しい時に、すこし時間がたって能天気にわらっている自分を信じて楽天的になるのはむずかしい。雲の切れ間を待っている。今は大雨なだけ。」

やさしくあたたかい色とことばで綴られるいくつかのお話。ゆったりした時間の中でふと手に取って読んでもらいたいエッセイです。

人間心理学科２年 岡山 眞子

開架 914.6||Oo

『竜の学校は山の上』

九井 諒子

勇者が魔王を倒したその後、魔物が人と共存する短編が纏められている。

その中で気に入ったのは働き者の馬人（ケンタウロス）と働く意欲のない猿人（人間）の物語。働きすぎだと馬人の雇用を減らすことにした猿人たち。それは横暴だと反対する馬人たち。どこか現実世界とファンタジーが混ざる不思議な物語です。

解決案を考えていくとどっちの意見を優先するか悩んでしまう。このモヤモヤした感じ雨が降った日の夜に似てますね。

表現文化学科２年 I・H

コミック C||Ku

今回のお題は雨にまつわるおすすめ本です

死を迎える人間と過ごし、彼らの死を見届ける死神・千葉の物語。内容は６話の短編集となっており、それぞれの物語で千葉と違う人物による物語が楽しめる作品になっています。

伊坂幸太郎の作品には魅力的な登場人物が多いですが、この物語の主人公・千葉が最も魅力的な登場人物だと私は思います！

死神と雨。一見共通点が見えないこの二つがどのように絡むのか。興味がある方は、雨の日にでもこの本を手にしてはいかがでしょうか。

表現文化学科１年　巻　真危

『死神の精度』

伊坂　幸太郎

開架　913.6||Is

「俺が仕事をすると、いつも降るんだ。」雨を連れてやってくる死神、千葉。７日間その人物が死に値するか調査をする死神はミュージックをこよなく愛しCD屋に入り浸る。ユーモアたっぷり描かれる死神はとても奇妙だがどこか滑稽で思わず笑ってしまう。映画にもなっているこの本は今までの死神のイメージをガラリと変えるでしょう。もし、あなたが雨の日に手袋をつけている人物に出会ったら、それは死神かも知れませんよ？

表現文化学科２年　S・H

『食堂かたつむり』

小川　糸　開架　913.6||Og

恋人に家財一式をすべて持ちさられ、ショックのあまりに声を失ってしまった倫子。祖母の形見・ぬか床を抱え、故郷へ帰ることに。そこで食堂を開くことを決意する。その料理を食べると「奇跡が起きる」噂が流れ始める。食堂で起きる、優しい奇跡の数々。あなたも、食堂かたつむりで食事をしてみませんか？

表現文化学科１年　お粥

海が綺麗な街、翠曜岬の昼下がりはとてものどかで静かである。その街に住んでいるリサは浜辺で見つけたガラスのバイオリンで、へたっぴな音色を街に響かせている。いつも通っているラムネ屋のおじさんをはじめ、街の人達との交流によりリサは、水の不思議に興味をもちはじめる。

ソーダ水がはじけて水玉の雨が降りそそぐような幻想的な世界にリサは引き込まれていく。

憂鬱な梅雨に読めば、爽やかなはじける気持ちになれる本である。　　表現文化学科３年　N•E

『8月のソーダ水』

コマツシンヤ

コミック　C||Ko

『あっちゃんのよんだ雨』

さとうさとる　作／わたなべゆういち　絵

主人公のあっちゃんが母親や祖母のために雨を降らそうとする単調な物語。しかしながら、生活における雨の重要性、子供であるあっちゃんの純粋な考え方や行動、また、童話ならではの登場人物は「えっ」と驚きました。

この本を読んでから雨を見れば、思い出して小さく微笑んでしまう作品でしょう。

表現文化学科二年　佐藤　浩貴

開架　913.8||Sa

LM広報部は10月に行われる図書館フェスタに合わせて、図書館と本にまつわる広報誌を発行予定です。乞うご期待！